

浜松市土木工事品質管理基準 第4回改定 新旧対照表

新・令和6年4月版

P159

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認						
11	路床安定処理	施	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 G023	(沈下状況の異常なし)	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・確認試験である。 ・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・沈下状況の異常が認められた場合は、その箇所においてたわみ量試験を行うものとする。 							
									その他	平板荷重試験	舗装調査・試験法便覧 S042 JIS A 1215		延長40mにつき1箇所の割合で行う。	セメントコンクリートの路床に適用する。
										現場CBR試験	JIS A1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	確認試験である。
										含水比試験	JIS A 1203 舗装調査・試験法便覧 F003	設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事お1工事当たり3回以上。	確認試験である。
										たわみ量	舗装調査・試験法便覧 S046 (ぶがぬびま)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良箇所について実施	確認試験である。

旧・令和3年4月版

P159

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認						
11	路床安定処理	施	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 G023	(沈下状況の異常なし)	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・確認試験である。 ・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・沈下状況の異常が認められた場合は、その箇所においてたわみ量試験を行うものとする。 							
									その他	平板荷重試験	舗装調査・試験法便覧 S042 JIS A 1215		延長40mにつき1箇所の割合で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。
										現場CBR試験	JIS A1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	確認試験である。
										含水比試験	JIS A 1203 舗装調査・試験法便覧 F003	設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事お1工事当たり3回以上。	確認試験である。
										たわみ量	舗装調査・試験法便覧 S046 (ぶがぬびま)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良箇所について実施	確認試験である。

新・令和6年4月

P162

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 ア ン カ ー 工 工	施	必 須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回（午前・午後）／日		
			モルタルのフロー値試験	JSCE-F521-2018	10～18秒 Pロート (グラウンドアンカー設計施工マニュアルに合わせる)	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。		
			適性試験 (多サイクル確認試験)	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で荷重と除荷を繰り返す。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
			確認試験 (1サイクル確認試験)	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで荷重した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
		その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	所定の緊張力が導入されていること。		・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオフ試験等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。	

P162

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 ア ン カ ー 工 工	施	必 須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回（午前・午後）／日		
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による。	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。		
			適性試験 (多サイクル確認試験)	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で荷重と除荷を繰り返す。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
			確認試験 (1サイクル確認試験)	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで荷重した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
		その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー 設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	所定の緊張力が導入されていること。		・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオフ試験等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。	

旧・令和3年4月

新・令和6年4月

P163

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
15補強土壁工	施必	工工須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≤53mm: JIS A 1214	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)もしくは90%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。(削除)または、設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事お3回以上。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定する。	・橋台背面アーチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】平均92%以上かつ最小90%以上 【インテグラルアット構造の橋台背面】平均97%以上かつ最小95%以上	
				最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便覧 G021-1				
				RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案) (建設省技調発第150号平成8年8月16日)による				
	「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」(国土交通省)による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1.盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2.管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層あたりの施工面積が1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4.土取場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取扱うものとする。					

旧・令和3年4月

P163

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
15補強土壁工	施必	工工須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≤53mm: JIS A 1214	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)もしくは90%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。または、設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事お3回以上。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定する。	・橋台背面アーチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】平均92%以上かつ最小90%以上 【インテグラルアット構造の橋台背面】平均97%以上かつ最小95%以上	
				最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便覧 G021-1				
				RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案) (建設省技調発第150号平成8年8月16日)による				
	「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」(国土交通省)による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1.盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2.管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層あたりの施工面積が1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4.土取場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取扱うものとする。					

新・令和6年4月

P177

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
20	施	必	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 $\leq 53\text{mm}$: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 $> 53\text{mm}$: 突砂法 (舗装調査・試験法便覧 G021-1)	【砂質土】 下記の密度への締固めが可能な範囲の含水比において ・路体:最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部: ①最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法) ②最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) 【粘性土】 ・路体:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、 空気間隙率 V_a : $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または飽和度 S_r : $85\% \leq S_r \leq 95\%$ ・路床及び構造物取付け部:トラフィカビリティーが確保できる含水比において、 空気間隙率 V_a : $2\% \leq V_a \leq 8\%$ ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 その他、設計図書による。	路体の場合、 $1,000\text{m}^3$ につき1回の割合で行う。 路床の場合、 500m^3 につき1回の割合で行う。 (1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う)	(削除)	

旧・令和3年4月

P177

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
20	施	必	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 $\leq 53\text{mm}$: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 $> 53\text{mm}$: 突砂法 (舗装調査・試験法便覧 G021-1)	【砂質土】 下記の密度への締固めが可能な範囲の含水比において ・路体:最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部: ①最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法) ②最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) 【粘性土】 ・路体:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、 空気間隙率 V_a : $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または飽和度 S_r : $85\% \leq S_r \leq 95\%$ ・路床及び構造物取付け部:トラフィカビリティーが確保できる含水比において、 空気間隙率 V_a : $2\% \leq V_a \leq 8\%$ ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 その他、設計図書による。	路体の場合、 $1,000\text{m}^3$ につき1回の割合で行う。 路床の場合、 500m^3 につき1回の割合で行う。 (1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う)	JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。	

新・令和6年4月

P178																	
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認									
20	道	施	必	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案) (建設省技調発第150号平成8年8月16日)による	<p>【砂質土】</p> <p>下記の密度への締固めが可能な範囲の含水日における1管理単位の現場乾燥密度の平均値</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体：最大乾燥密度の92%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 路床及び構造物取付け部： <ul style="list-style-type: none"> ①最大乾燥密度の97%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法) ②最大乾燥密度の92%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) <p>【粘性土】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体、路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 <p>または、設計図書による。</p>	<p>盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の日安を下表に示す。</p> <table border="1"> <tr> <td>面積(㎡)</td> <td>0~500</td> <td>500~1000</td> <td>1000~2000</td> </tr> <tr> <td>測定点数</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> </table>	面積(㎡)	0~500	500~1000	1000~2000	測定点数	5	10	15	<ul style="list-style-type: none"> 最大粒径<100mmの場合に適用する。 左記の規格値を満たしているが、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 (削除) 	
						面積(㎡)	0~500	500~1000	1000~2000								
測定点数	5	10	15														
				「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」(国土交通省)による	<p>施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。</p>	<p>1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</p> <p>3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>											

旧・令和3年4月

P178																	
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認									
20	道	施	必	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案) (建設省技調発第150号平成8年8月16日)による	<p>【砂質土】</p> <p>下記の密度への締固めが可能な範囲の含水日における1管理単位の現場乾燥密度の平均値</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体：最大乾燥密度の92%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 路床及び構造物取付け部： <ul style="list-style-type: none"> ①最大乾燥密度の97%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法) ②最大乾燥密度の92%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法) <p>【粘性土】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路体、路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 <p>または、設計図書による。</p>	<p>盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の日安を下表に示す。</p> <table border="1"> <tr> <td>面積(㎡)</td> <td>0~500</td> <td>500~1000</td> <td>1000~2000</td> </tr> <tr> <td>測定点数</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> </table>	面積(㎡)	0~500	500~1000	1000~2000	測定点数	5	10	15	<ul style="list-style-type: none"> 最大粒径<100mmの場合に適用する。 左記の規格値を満たしているが、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 	
						面積(㎡)	0~500	500~1000	1000~2000								
測定点数	5	10	15														
				「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」(国土交通省)による	<p>施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。</p>	<p>1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。</p> <p>2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</p> <p>3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>											

新・令和6年4月

P205

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
35 鉄 筋 挿 入 工	材 料	必 須	品質検査 (芯材・ナット・プレート等)	ミルシート	設計図書による。	材料入荷時		○
			定着材のフロー値試験	JSCE-F521-2018	9~22秒	施工開始前1回および定着材の材料や配合変更時に実施。1回の試験は測定を2回行い、測定値の平均をフロー値とする。	定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合	
			圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	施工開始前1回および施工日ごと1回(3本/回)		
			その他 外観検査 (芯材・ナット・プレート等)	・目視 ・寸法計測	設計図書による。	材料入荷時		
施 工	必 須	引き抜き試験	地山補強土法設計・施工マニュアル	設計図書による。	・施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。 ・载荷サイクルは1サイクルとする。			
		適合性試験			・地層ごとに3本以上を標準とする。 ・载荷サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は、5.0kNもしくは計画最大荷重の0.1倍程度とする。			

P205

(追記)

旧・令和3年4月